令 和 ６ 年 度　学 校 自 己 評 価 シ ス テ ム シ ー ト （ 県立日高高等学校 ）

目 指 す 学 校 像	地域の期待に応え、社会で活躍できる生徒を育てる学校

重　点　目　標	1　授業改善を進め、基礎学力の向上を図る 2　基本的生活習慣（SNS 等との付き合い方を含む）を確立させ、豊かな心身を育む 3　組織的・計画的な進路指導を充実させ、一人ひとりの進路実現を図る 4　地域との連携を一層深め、開かれた学校づくりを推進する

※　重点目標は３つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目（年度達成目標を意味する。）は複数設定可。
※　番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度		
	A	ほぼ達成（８割以上）
	B	概ね達成（６割以上）
	C	変化の兆し（４割以上）
	D	不十分（４割未満）

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者学校関係者	名
生徒	名
事務局（教職員）	名

学　校　自　己　評　価							学 校 関 係 者 評 価
年　度　目　標				年 度 評 価 （ ２ 月 １ 日 現 在 ）			実施日令和　年　月　日
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校関係者からの意見・要望・評価等
1	【現状】授業研究や授業改善を行い、88%の生徒が授業に満足している。基礎力診断テストを活用し、生徒の実態に即した授業を展開することにより、95%の生徒が「授業がわかる」と回答。 【課題】タブレットを活用した授業の工夫と推進。引き続き、基礎学力の向上、探究型学習の推進、観点別評価の完成、資格取得に対する意識改善が必要。	授業の満足度85%以上を維持すること等を通じて、学習意欲を高め基礎学力を向上させる。	①教員相互の授業観察や研修会を通じて、教員の授業力を向上させ、生徒の基礎学力の定着を目指す。 ②年 2 回の学校評価アンケート（6 月、12 月）を実施し、経年変化の調査を継続する。 ③自習室の開室・利用促進、朝学習、一人一台端末（1 学年）、学習サポーター、日本語支援員、全クラス配付の新聞 4 紙を活用して、学習意欲を育成する。 ④基礎力診断テストを活用し、個々の学習到達度を把握し、個に応じた学習指導をさらに充実させる。 ⑤探究学習に挑戦させ、達成感と向上心を育成する。	①授業公開や研修会を実施できたか。 ②アンケートの結果、「授業がわかる」、「授業に満足」の回答 85%以上。保護者の満足度 95%以上を維持できたか。 ③自習室・朝学習の実施状況。一人一台端末（1 学年）・学習サポーター・新聞を活用できたか。 ④基礎力診断テストの結果を基に基礎学力がどれくらい伸長したか。 ⑤探究型学習に積極的に取り組む生徒の割合が増加したか。				
2	【現状】落ち着いた生活環境になりつつあり、挨拶のできる生徒が増加した。多くの社会貢献活動をとおして、本校の地域への貢献度や存在感も高まっている。 【課題】基礎的生活習慣の確立に向け、引き続き組織的・継続的に指導をする必要がある。SNS や ICT との正しい付き合い方を徹底する。また、地域の期待に応え、社会に活躍できる生徒を育てるため、学校行事・社会貢献活動に積極的に参画し、自己有用感を持たせることが望まれる。	基本的生活習慣を確立し、規律ある態度を身につけさせる。	①挨拶励行・時間厳守・整理整頓の目標を教室に掲示し、規律ある生活態度を育成する。 ②TPO に応じた服装指導等を学校全体で実施する。 ③SNS や ICT の正しい理解に向けた指導を徹底し、生徒を被害者にも加害者にもさせないよう、トラブルの発生を防止する。	①「ルールを守っている」「整理整頓ができている」「挨拶をする」と回答した生徒が 90%を超えたか。 ②登校時、全校集会時に実施できたか。 ③SNS や ICT に関わる注意喚起を継続的に行い、トラブルの発生を防止できたか。				
		体験活動や社会貢献活動に積極的に参加させることにより、生徒の豊かな心身を育成する。	①校外学習（5 月）、体育祭（6 月）、文化祭（9 月）、生徒会立会演説会（10 月）、強歩大会（11 月）等の学校行事等に積極的に取り組ませ、生徒の自立心と協調性を育成する。 ②地域や地元団体からのボランティア要請には、できるだけ応え、多くの生徒が地域に貢献できるように指導する。地元小中学校等との交流や地域貢献活動を実施する。 ③SC や保健室・関係委員会と職員全体を結び付ける校内支援体制を構築し、特別支援教育や教育相談の充実を図る。	①「積極的に行事に参加している」と回答した生徒が 90%を超えたか。 ②生徒が何らかの社会貢献活動に参加できたか。小中学校等との連携事業に参加できたか。 ③特別支援教育推進委員会・教育相談委員会の定期的な開催に加え、ＳＣ等の活用や保健室・関係機関と連携し、効果的な取組ができたか。				
3	【現状】各学年で工夫した進路計画を組織的に指導し、ほぼ全員の進路を確定することができた。 【課題】進路に対する意識が希薄な生徒もいる。生徒の職業観や就労への意識を高める工夫や機会を増やし、個々の生徒の適性に応じた進路指導が求められている。	計画的・組織的な統一した進路指導により、生徒全員の進路実現を目指す。	①3 年間を見通した進路計画を策定し指導をして、さらに見直しを図りながら生徒一人一人に適した進路指導を実施する。 ②進路行事・キャリア教育講演会を実施し、生徒の進路意識を向上させる。 ③情報発信の工夫により、家庭の理解を深め協力を求める。 ④外部機関や就職支援アドバイザーとの連携により、生徒をオープンキャンパスや合同企業説明会に積極的に参加させる。	①計画的かつ組織的に指導できたか。3 年生全員の進路先を決定できたか。 ②充実した進路行事等を実施できたか。 ③保護者宛文書や一斉メールを活用できたか。 ④就職支援アドバイザーを十分に活用できたか。進路相談対応を充実させることができたか。				
4	【現状】昨年度創立 50 周年を迎え、地域や保護者の期待は高まっている。地元小中学校との信頼関係を維持している。PTA との関係も良好である。 【課題】学校説明会等を見直し、新しい手段を活用し、志願者の確保に向けた取組を学校全体で行う必要がある。地域・保護者との連携を一層深め、開かれた学校づくりを進めることが求められる。	ＰＴＡ活動をより充実させるなど保護者との連携を深める。	①PTA だよりを年 2 回発行し、保護者への広報活動に努め、ホームページに掲載する。 ②保護者会等あらゆる機会を通じて一斉配信メールへの登録を呼びかけ、様々な場面で一斉配信メールを活用する。 ③ＰＴＡ理事会等を通じて保護者同士のネットワークを構築し、ＰＴＡ活動の充実を図る。	①PTA だよりやホームページを通じて、PTA 活動の情報発信ができたか。 ②一斉配信メールを通じた保護者への連絡・配信回数が年間 50 回を超えたか。 ③効果的な PTA 活動を実施できたか。				
		本校の魅力を情報発信し、本校理解を高め、志願者を確保する。	①ホームページの内容を充実させ、更新回数年間 180 回以上を目指す。また、「日高高校だより」を学期に 1 回以上発行することを目標とする。 ②学校説明会の内容を充実させ、本校の魅力を積極的に発信する。 ③入試倍率 1 倍超を実現させる。 ④日高市や近隣の学校との連携を強化し、開かれた学校づくりを推進する。	①ホームページを年間 180 回以上更新できたか。「日高高校だより」を学期に 1 回以上発行できたか。 ②学校説明会等への参加者数が前年度よりも増加したか。 ③入試倍率 1 倍超を実現できたか。 ④日高市や近隣の学校との連携し、探究学習等で協力体制を強化できたか。				